

## 平成22年度タウンミーティング 意見交換 会議録

- ・開催日時 平成22年4月18日(日) 午後2時～4時
- ・開催場所 南大井文化センター レクリエーションホール
- ・参加人数 50人
- ・区出席者 濱野区長、日下部企画部長
- ・司会進行 中川原広報広聴課長
- ・次第

開会のあいさつ

区長あいさつ

区長プレゼンテーション

「これからの品川区のまちづくり」

意見交換

A 大森駅前住宅の高齢者見守り（活動報告） . . . . . 1 ページ

B 品川健康センター、きゅりあんの利用予約の工夫・改善について  
. . . . . 3 ページ

C 西大井体操会（活動報告） . . . . . 4 ページ

D 乳幼児と母親のいこいの場の設置を . . . . . 6 ページ

E 品川区独自の建築基準緩和制度を . . . . . 8 ページ

F 品川区の財政・事業・創造性について . . . . . 10 ページ

区長あいさつ

閉会

意見交換

### ◆Aさん

#### 大森駅前住宅の高齢者見守り（活動報告）

大森駅前住宅は今年で築40年を迎える。現在759世帯、約1,500の方が住んでいる。近年高齢化が進み65歳以上の方がおよそ28%、430人を越える。大森駅前住宅自治会では民生委員と協力して平成20年11月に「ホットサロンゆうゆう」を立ち上げた。品川区から高齢者見守りネットワーク活動のモデル地区に選ばれたのをきっかけに、平成21年度区の助成金を受けて活動を始めた。

まず、住民の皆さんに「孤立死をなくそう」というPRパンフレットを配布した。これには、大きな反響があり、私達も勇気付けられた。何度も会合を開き、いろいろ取り組む案が出たが、最も基本になることはお金を使うということではなく、「挨拶運動」や「声かけ運動」が一番ではないかという結論に至り、現在実践している。そのおかげで「ホットサロンゆうゆう」に参加する方が、最初は20人前後しか集まっていなかったのが、徐々に増えており毎回30～40の方が、いろいろな催しなどで楽しそうに話をされて笑顔で帰っていく。

21年度の活動としては、昨年10月に大井警察交通課の協力を得て高齢者向けの交通ルールの講義を実施し、11月に行政と南大井在宅介護支援センターの協力で、認知症の勉強会を開き80の方が参加し、とても盛況で自分たちの将来のことをかなり考えているということが

わかった。同じく 10・11 月には、今年 3 月に発行された『すまいるしながわ』に掲載されている「大森駅前住宅の高齢者見守り」の取り組みの取材を受けた。ゆうゆうの活動が少し活発になり、22 年 1 月から「ゆうゆう体操」が月 2 回に、2 月から「習字教室」が始まった。

今後の課題は少し資金が不足しているので、区の助成を今 3 年間で受けていますが、これをもう少し長くお願いできないかということで、よろしく検討をお願いしたい。

## 区長コメント

孤立死ゼロ大作戦というのが、今、品川区の大きな行政課題です。よく新聞などに載っています。マンションの 1 室で亡くなられて何日間かたったり、あるいは何か月間かたって発見されたというようなケースがありますけれど、そういったことがないようにということが、孤立死ゼロ大作戦の目的です。同時に、やはり弱ってこられた方の変化をいち早く察知して、例えばその方をどちらかのホームに移すとか、あるいはケアをするとか、必要性なケアにつなげるというのが一番大事なわけです。

では、それを誰が発見するかということです。区役所には、例えば高齢福祉の課に 10 人とか 20 人とかという人数の職員がいますが、この人数の職員が区内の全部のお年寄りの安否を見て歩くというのは、とても無理な話です。やはり身近な地域の人たちがお互いに見守っていくというのが大事なことでないでしょうか。

このことは、単に孤立死ゼロとかいうことだけではなく、いざ災害、いざ地震、いざ火災といったときに、どこにどういう人が住んでおられて、どういう状態なのかということのを地域の人たちがよく知っているということがいかに大事なことかというのは、阪神淡路の震災のときも明らかになったわけです。そういう意味で、地域で見守るということをして区としてバックアップしようということで、今、モデル事業をいくつかの地域でやっていただいております。これには、やはり地域の人たちのそういう必要性に対する理解ということと、実際にだれがそれをやるかということです。皆さん忙しいです。体だって 1 つしかないわけですから、そういう時間や労力をどうやって割いていただくかということがポイントになってきます。

今、大森駅前住宅では、自治会が実際に自分たちでそういうことをしていこうと、様々な試みをされています。この活動を区がバックアップするという、協働という考え方ですけれども、区役所がすべてのことをやれるわけではありません。ある課題についてはその地域の方々、あるいは何かをしようという団体の方々とタイアップしてやっていこうというのが協働ということで、今、いろいろと支援をさせていただいたり、あるいは実際に時間を割いていただいたりしているわけです。

協働というのは、ずっと区が支援をしていくということになりますと、これもまた大変な財政負担になるのです。ですから一定の期間を区切ってご支援をさせていただきますので、その間に態勢を整えて、その後はご支援なしでやっていかれるような工夫をしていただきたいと思います。

今、支援の期間の延長というお話が出ました。これはまた個別にご相談させていただきたいと思っておりますけれど、仕組みとしてはやはり一定期間の支援ということで、それぞれの団体が自立をしてやっていっていただきたい。あまりお金の面で区がいつまでもおつき合いをしますと、やがて区の下請けみたいになってしまう。それではやはり住民の方々の自主的な運営ということからはちょっと外れてしまうのではないのでしょうか。そういう意味では、やはり最

終的には財政的にも自立をしていただいて、区と対等の立場でいろいろ活動していただくのが望ましいのではないかなと思っています。個別具体のお話はまた、その担当のところと考えさせていただきますと思います。

## ◆Bさん

### 品川健康センター、きゅりあんの利用予約の工夫・改善について

品川保健センターのコースは、家族でよく利用している。年3回ある講座の申し込みに毎回抽選申し込みをしているが、落選してしまうことが少なくない。ちなみに今回は定員15人の息子の体操教室はキャンセル待ちで25番だったりする。毎回抽選があると、継続をしたい体操などのレッスンも、希望がかなわない状態である。

品川保健センターは体力づくりの場だけではなく、お友達をつくったりするような場でもあるかと思うので、ぜひ今後も利用したいが、コース数や定員数が希望よりも少ないのではないか。民間のスポーツクラブも利用しているが、料金がかなり高めで、例えばスイミングなどは入会するまでに早くも3カ月、待てば1年以上となっている。

そのようなことをよく話しているせいか、今回品川保健センターの講師の先生の力を得て、文化センターでホールを借りて活動を4月から始めることができたが、文化センターもスポーツに適しているスポーツ室というのは競争率が高くて、普通の部屋になってしまうことも多々あるようだ。そのような部屋は、床が硬いので足への負担になったり、バタバタ音がしてしまうようで、周りの教室にも迷惑であると言われ、少し個人の活動の中ではなかなか壁が大きいというのを感じているのがこの一、二カ月。

また、文化センターではなく、児童センターなどもあたってはいるが、MDデッキやCDデッキなどの備品などもなかなか貸してもらえないので、せめてそのような備品だけでも区からお手伝いしていただけるような場になっているともっと借りやすいのかなと思う。メイプルセンターやきゅりあんなども、とても魅力的な施設や内容であるので、ぜひ利用したいが、なかなか遠方であるために利用しづらい。あと稼働率がとても高いようなので、利用したい土日に限ってやはりもう全然取れないという状況がある。

こういった施設は簡単に増やすことは難しいのは承知しているし、講師の皆さんのニーズなどの制限もあるのは重々承知しているが、もし行政でよいアイデアなど提案してもらえれば、ぜひママ同士で協力したいと思っている。今後の何か取り組みとかがあったら、ぜひ聞かせたい。

## 区長回答

ご質問いただきました品川保健センターは本当に人気がありまして、抽選となったり、あるいは抽選に当たらなかった方から「今年は当たらなかった」といって電話がかかってくるということも聞きました。

ポイントは、品川保健センターの講堂でスペースをどれだけ有効に活用できるかということが一つ。もう一つは、人気のあるコースと、実は人気のあまりないコースもあります。それをどのように組み合わせるかということです。人気がないからといってやめてしまうと、やはりそれを続けていた人たちからは、「さびしい思いをします」という声がありますから、そこをどうやってうまく組み合わせていくかということが一つです。スペースの活用は、以前あったレストラン

の場所を、スポーツができるような場として活用しました。

今、区民の皆さんが使えるスペースを増やしていこうということで、荏原平塚学園が、今度平塚橋のところにもうすぐ完成します。そうしますと平塚小学校が空き、文化施設、交流施設をつくります。少し北品川からでは距離がありますが、平塚小学校跡にそういう施設をつくります。また、五反田文化センターも改築いたしました。音楽をできるような、当然ダンスやそういうものもできるような防音のスタジオがかなりあります。

それからもう一つは、八潮南小学校の空いたところを文化交流施設として、来年の2月でしたか、オープンをする予定で、今、改修をするところです。ここも八潮ですから北品川から少しあるかもしれませんが、ここもいろいろな意味で、区民の皆さんに活用していただけるスペースが増えるのではないかと思います。

そういうことで増やしていきますけれども、やはりどうしても、行政のサービスというのは、「供給は需要を喚起する」という言葉のように、行政サービスというのは、増やせば増やしたなりにもっと必要だということになります。ですから行政サービスを充実すると、さらに充実するということが求められてくるので、ここはやはり財政と相談しながら、財政が破綻しないようにお金と相談しながらやっていかなくてははいけないのです。それが何か区民の皆さんからすると、なかなか希望に沿ってくれないではないかというお叱りを受けるのですけれども、これは難しいところです。

そういう中で、平塚小学校の跡、それから八潮南小学校の跡、そして五反田文化センターの改築というようなことを通して、少しでも区民の皆さんが活動できるスペースを増やしていきたいと思っています。ぜひ活用していただきたいと思います。

メイプルセンターは私が企画立案して開設しましたので承知していますが、あそこはやはり独立採算でやる施設ですので、人気のあるものをどんどん開発してやりますので、人気がないとどんどん人気のあるものに変えていきます。そういうことで結構稼働率が高いことは確かですし、スペースも年中使われているというのは確かです。そういった意味でもスペースは必要だと思っていますので、これからも工夫をしていきたいと思っています。

## ◆Cさん

### 西大井体操会（活動報告）

西大井体操会は今年で33年になるが、私は4代目の会長で、会長をやったのは平成6年からで、もう16年ぐらいたつ。現在、会員は200人いるが、毎朝6時半から始まる。その前に中国体操を20分か25分ぐらやっているが、中国体操は1・2月を休んでもらっている。これは真っ暗な中でやっていて事故が困るからで、また、この体操会が年寄りばかりで、非常に危険度の高い会である。

会員以外の方も多数出席しているが、今日あたりは150～160人出たのではないかな。大体これから7・8月になると、250～300人になる。もちろん会員ではない方もどうぞ出席結構ですと、そういうことでやっている。

行事は年に1・2回、バスハイクを行っている。また、総会は毎年4月29日と決めており、今年も今月29日、品川区の中小企業センターを借りて行なう。大体、出席者が60人ぐらいで、すべて会費でやっている。この会は区長の言うように、区による補助は一切ありませんからご安心ください。その代わり体操会は婦人が非常に多いので、料理を作ってもらいお弁当を

出している。

10人ぐらいの方が張り切ってやってくれる。そういう方法をとって、それでお弁当は大体夕飯に持って帰る人が多い。29日の日は大体、時間は午前11時から始まって午後3~4時頃でやっているが、総会が終わった後はカラオケを借りて、それからまたダンスをやる人もいるし、ゆっくり楽しむ人もいるし、早く帰る人もいるが、大体3時か4時ごろまでで解散するようにしている。それが終わると、すぐ会員に会費集めに行き、会費は1口500円でやっているが、会費が終わると今度は旅行の企画とかいろいろある。

実際、ラジオ体操というのは毎朝西大井広場へ来て「おはようございます」とあいさつするだけでも随分違うのではないか。その日が1日すごくいいような感じがする。それにまた年寄りの人が多いから、あいさつするだけでも、痴呆防止にもなるのではないか。孤立死は防げるし、私はそういう考えを持って長くやっているが、今年は特に役員改選時期で、私がいつも首になりたいからとみんなに言っているが、なかなかやめさせてくれないで今日まで来ている。本当に朝早くから行ってあいさつするだけでも、その1日の始まりということで非常に気分がいいのではないかと、いつも皆さんに言っている。

前は1泊旅行もやったが、みんな高齢者になり、私自体ももう後期高齢者になり、温泉に行って転んだら非常に危険なので、1泊の場合は有志でやってくれということで、今はもう一切、会は主催していない。いつも日帰りバスハイクで、去年千葉方面だから、今年は伊豆方面がどうかということで、これから検討しようと思っている。

## 区長コメント

西大井のラジオ体操会では、本当にたくさんの方が早朝から体操をやっています。今日お配りしたこの『すまいるしながわ』の12ページ以降に、私が取材に行きまして、私もまじめな顔をしてラジオ体操をやっている写真が載っていますけれども、大変元気な方ばかりです。

何でこのラジオ体操を私が注目しているかというと、今、国民の医療費が本当にどんどん膨らんでいるというようなこと。そして高齢社会を迎えているということで、ご高齢の方が元気でいつまでも過ごしていただくということが、国にとっても、当然区にとっても大変に重要なことだというふうに思っています。

例えば介護保険の中にも、介護予防という事業が入ってきました。介護保険のお金で介護予防事業をやっていきましようという考え方です。例えば品川区も筋力トレーニング、あるいはいきいき脳の健康教室で、お年寄りの方の元気が少しでも長く維持できるように、それが政策の一つの重要なポイントになっています。

そういうことからして、このラジオ体操というのは大変に社会にとっても大事なことだと。しかも、今、会長が言われたように、公的には一切銭を出していませんから財政負担にもなりません。むしろ財政上、健康を維持していただくということでは、財政負担ではなくて、財政に寄与して下さっているというふうに思っています。

暦は全然関係ないのですね。正月であろうが何であろうが、とにかく朝6時半ということでやっておられるということで、すばらしいなと思っています。この19ページにもいくつか品川区内でやっているラジオ体操の会が載っていますけれども、こういう会がどんどん増えていったらいいなと思います。

ラジオ体操のよさというのは、これはもう皆さんに私なんかと言うまでもないことですね。

ども、ラジオに従って、音楽に従って一定時間、短い時間やればそれで終わり。それが毎日積み重なっていくというところがやはり健康につながっていくのだらうと思います。そういうことで、こういうラジオ体操の会が区内のあちこちのところでどんどん広がっていったらすばらしいのではないかなと思っています。

私もこの間、久しぶりに出させていただいたのですが、眠くて、眠くて。ふだんだったら寝ている時間ですから。お年寄りの人たちがもう元気に出てくるのです。お年寄りだから朝、早いかもしれませんが、本当にすばらしいなと思いました。さっきもお話がありましたけれども、来てあいさつをして、元気な顔を見て、また帰っていくということだけでも、元気がもらい合えるというものだと思いますので、ぜひ皆さん方の地域においても始めていただければと思っています。

## ◆Dさん

### 乳幼児と母親のいこいの場の設置を

子どもも1歳5カ月となると、歩いたり体を動かすのがうれしい時期で、いろいろなところに走り回ったり、一時もじっとしていない。この時期のお母さん同士とのランチなどをすると、本当にどこに行くかというメールのやりとりだけで1日終わってしまうほど、レストランなどへ行くのが大変難しく、周りの方にも迷惑をかけてしまうような状況にある。そういったことで、待機児童対策として、ポップンルームなどを縮小して、さらに既存の児童センターにオアシスルームを保育園から移管するような形をとられるとするならば、そういったものの代替として、キッズルームのようなものを大井町駅のような大きなターミナル駅などに、雨風がしのげるような、子供を遊ばせながらお母さんたちも集えるような施設をつくっていただけたら、とてもうれしい。お金も随分かかってしまうので、財政難だと思うが、いかがか。

また、幼保一元化の認定こども園について、品川区長の考え方、進捗状況を教えていただきたい。

3番目に、ファミリーサポート、保育ママ登録状況と進捗状況を教えていただきたい。この認定こども園と、ファミリーサポート、家庭保育士さんなどが増えれば、建物を増築しなくても、待機児童問題などを改善できると思うが、今年度の施政方針の方で数字が出ていなかったもので、具体的な目標数値などがあれば教えていただきたい。

### 区長回答

ポップンルーム、オアシスルームが保育園の待機児童対策のために、こっちへ行ったり、あっちへ行ったり、あるいはなくなったりということで、大分ご迷惑をおかけしています。実は、私は大崎保育園のすぐそばに住んでいるので、通勤のときにそのそばを行ったり来たりするのです。あそこもポップンルームやオアシスルームをやっていましたが、別の場所に移転したので、あまり保育園の前を通れなくなりました。「区長さん、ひどいわよ」って。ポップンルームがなくなったとか、いろいろなことを言われるものですから、ちょっとわきから通って行ったりしています。

やはりそういうところを利用されていた方にとっては、これはいかに保育園待機児童対策だといっても、不便だなという思いはされると思います。これは誰も自分のことは大切ですし、もちろん頭では保育園の待機児童対策というのも大切なことだというふうには理解してくだ

さっていても、実際に自分のことになって手間がいろいろ増えたりすれば、これはやはり何とかして欲しいなと思われると思います。

例えば北品川の品川宿にあるようなおばちゃんちというような形で、空き店舗対策の一つとして子供を一時預かりするというようなことも可能です。時々そういうお声がありますので、実際に空き店舗対策として、そういうことがおやりになれるようなか方がいればということですが、なかなか現実には結びついていかないというのが実情です。

ですので、大井町の駅には認証保育所ができるのです。中に出店としてうちが出すのは、やはり財政的に非常にきついで、何とかして工夫をしていかななくてはいけないと思いますが、今のところこれといったのがないのが実情です。ですので、ちょっとしばらくご不便かもしれませんが、何とかやりくりをしていただきたいと思います。申し訳ありません。

でも、またさっき言ったように空き店舗の活用というようなことで、なるべくそういうことができるように努力します。それからもう一つは、お子さんを連れながら買い物をするというような時に、おむつのかえだとか授乳だとかができないから、外へ行くのが難しいとかおっくうだということになります。商店街の中に授乳スペースだとか、それからおむつをかえるようなスペースがあれば、子供を連れて外出するときに役に立つということがありますので、今年度の予算でも、商店街にお子さん連れの方が使えるようなスペースを設けていきたいと思っています。よろしくお願いします。

それから、もう一つは認定こども園のお話です。認定こども園というのはどういうのかと言いますと、要するに保育園の幼稚園化、幼稚園の保育園化した施設というふうに思っていた方がいいのではないかと思います。もともと、保育園というのは保育に欠ける子どもが行くところなのです。お母さんが働いている。だから子育てができない。そういう人は保育園ですよ。おうちにお母さんがいておうちで子育てができる、そういう人は幼稚園ですよということなのです。

これはずっとそうだから当たり前のように考えていますけれども、考えてみると親の状態によって子供の行く場所が違うのは、子供は小さくてわからないから何も文句言いませんけれども、親が働いているとこっちで、親が働いていないとあっちだというのは、子どもにとっては、物言わない子どもですけど、何かおかしいなということだと思います。しかも所管が、保育園は厚生労働省。幼稚園は文科省という縦割りです。完全に縦割りです。

ですので、西五反田にプリスクールというのを区がつけました。これは認定こども園ではありませんけれども、幼稚園と保育園と一体になった幼保一体施設というところなんです。その開所式に、厚生労働省の保育課長というのが来ました。保育に関する担当の役人です。それから文部科学省からも幼稚園の担当の課長が来ました。その人たちが交わした会話が「人前で並んで座ったのは初めてだね」って。文部科学省と厚生労働省ができて以来、人前でその担当の課長が並んで座ったというのは初めてだったそうです。つまり完全に縦割りだということですね。

これではやはり具合悪いと思うのです。では、親が働いている子どもは保育園で、そこでは幼稚園的な教育は全然受けられない。それでいいのか。働いていたら、午前中までで幼稚園は終わってしまう。これでいいのか。やはり幼稚園と保育園というのはそういう縦割りではなくて、同じようなものとしていくべきではないかということで、だけど国が相変わらず縦割りですから、そこを何かくっつけるような格好で、認定こども園というのができたのです。幼稚園

が保育園的になって長時間の保育をするようになります。それから保育園が幼稚園的になって幼児教育が受けられるというのが、認定こども園です。

ところが、これは全然進んでいないのです。品川区では公立の3園が認定こども園になっています。旗の台と五反田と一本橋、3つが認定こども園。公立で認定こども園って、都内で品川区の3つしかないのです。ほかは全然やっていないのです。それから私立でもなかなか進まないのです。なぜかという、縦割りで相変わらず両省に書類を出す。両方の監査を受ける。厚生労働省の監査も受けるし、文部科学省の監査も受ける。書類も両方に出さないとならないということで、しかも運営上の経済的なメリットが全然ないというので、全然進まないのです。

進まないのはどうしてだろうかなというので、麻生政権のときに小淵大臣が品川区に視察に来ました。だから言いました。「相変わらず縦割りで、財政のメリットも何もないから、これじゃあ増えませんよ」。「ああ、そうですか」と言って帰られました。政権が変わって、この間福島瑞穂さんが認定こども園のことについて視察に来ました。同じ質問をされました。引き継ぎなんか全然行われていないですね。

要するに認定こども園の考え方はいいのですけれども、實際上運営しようとするとうまく回らないのです。しかし、回らないからといって品川区はこれをやめてしまうかという、やはりやめない。それはなぜかという、子供にとって何が最良かといえば、親が働いている子供だって幼児教育を受けられる。そして親が働いていないからといって午前中で帰されるようなことではなくて、必要があれば長時間預かってもらえるような施設というのは、私は必要だと思いますので、これは続けていきますが、国の方の考え方、あるいは制度が変わらないと、これ以上は増やすということはなかなか難しいなと思っています。

それから、少し時間が長くなって申し訳ないのですが、ファミリーサポートの状況です。今、大井と平塚の2つのセンターでやっていますけれども、この援助をいたしましょう、サービスを提供いたしましょうという方が、平成21年度末で327人いらっしゃいます。327人がお世話いたしますよという方です。それから、世話してほしいのだけれどという依頼会員、この方が1,883人いらっしゃいます。だから、やってほしいという人とやりましょうという人と、ニーズとして6倍ぐらいの差があるのです。これをどうやって、やりましょうという人を増やしていくかというのが課題です。実際にどのくらい平成21年度中に利用されたかという、5,600回使っていただきました。

また、保育園を建てる、建てないとかいうことではなくて、お子さんの面倒が見ていただける。今年度の重要は柱として、「保育ママさんの制度」を構築していこうと。これはファミリーサポートとはまた別になりますけれども、江戸川区なんかでは保育園はほとんどないのです。みんな保育ママでやっている。そういった保育ママを活用する子育て支援というものもあるのではないかとということで、そういう制度を充実していこうと思っています。

## ◆Eさん

### 品川区独自の建築基準緩和制度を

後ろのタイトルに書いてある「住み続けたいまち品川」が、住み続けたいのはどこに住むかという家、住宅。今日のテーマは建築制限線に絞って考えているが、豊かに住みたい家が建つ住宅地域だとか専用地域、そこのところの制限がやたら厳しい。お金を稼いでよそから来た人たちや、そういう金銭目的で行くところは制限が緩い地区になっている。でもやはり住むと



ころが豊かな環境でないと、そこに住む人は気持ちよくない。

実は承知のことと思うが第一種住居専用地域、一番厳しいけれど、その根拠を聞いた。すると、天井の高さが2メートル10センチ以上ということであった。床から45センチ以上。そのぎりぎりのところを拾っていくと5メートルの家が建つはずだという。でも今どきの子供を見れば、2メートルにちょっと手が届くような子どもたちがたくさん育ってるけれど、その中でそんな2メートル10センチの天井の家に住まわせていいのか。これは一つ問題だと思う。

ちょっとさかのぼって考えると、昔は木造の2階建ての住宅が普通に建った。その制限をつくったがために、当たり前建つ家が当たり前建てられなくなってしまう。その結果どうなったかという、高さが低いばかりでなくて、単純な制限線でいきますから、外から見たときに家の形がおかしい。そうするとおかしな形の家というのは構造が難しい。難しい構造で果たしてこの地震の中でいいのかなと、いろいろな付随した問題が出てくる。一言で言うと、普通の木造の2階建て、あるいは最近では木造の3階建て住宅が建っているけれども、それぐらいのものは普通に建てられるような制限線に、あるいは制限をかけられるような住宅制度、あるいは建築基準法が考えられないかなと。それが今回の相談。

それで、そのためには当然建ぺい率やいろいろな背景があると思うが、それはいろいろ工夫をしてもらえればありがたいかなと思う。今の幼稚園の話だとか、学校制度だとか、いろいろなところで品川区は独自なことを生み出しているの、この辺のあたりでも品川区独自のものを考えていただいて、そして環境がよくて、それで住み心地のよい住宅を自分の力でもって建てられたら、区はお金を出さないの、個人が払うわけだから、負担はあまりかけないで済むかと思う。それで豊かな住宅環境を得られれば、全くますます皆さんが喜んで品川区で住みたいかなと思うのではないかな、このやたらきつい、住まわせたくない制限線ではなくて、より住みたくなるような制限を考えていただけたらありがたいと思い、ちょっとひと工夫お願いできたらと思い提案する。

## 区長回答

実際にこの日本の建築の規制というのは、やたら細かくて厳し過ぎるというふうに私も思います。理屈先行型ですよ。今、区役所免震工事を一生懸命やっています。非常にご不便をかけています。特に車で来られる方は、駐車場に入れなくて会議に遅刻したけれども、これは区役所のせいというようなくらいご迷惑をかけています。あの品川区役所の建物は、耐震的に問題があるということがわかりまして、さあ、どうしようか。

一つは別の場所に土地を求めて建てるという方法。それから、あそこの場所で建て直すということ。仮の事務所を借りて、しばらくそこで執務して、そこの場所で建て替えるということ。それから既存の建物に手を加えて、何とか倒れないようにするという方法。いろいろ考えました。

あれだけのまとまった土地を入手するというのはなかなか困難です。今、ちょうど中小企業センターの隣にJTの空き地があります。でも、JTは全然売る気配がありません。買うとなればばらばらな値段をつけられると思いますけれども。それでは、文京区だとか港区のように、どこかに仮のビルを借り、それで今のところに建て替えるかということ。これしかないなということ考えてみましたら建築制限で、全然建たないのです。もう全く建たない。もう、うんと小さな役所になってしまうのです。するとこれもだめだということで、仕方なしに今のよう

な免震工事というのをやっているのです。

ですから、いわゆる既存不適格の建物が品川区内にたくさんあるわけです。それで建て直すとする、建て直しがきかないというようなものがたくさんあって、本当にこの建築基準法の決め方というのは本当に細かすぎると思います。

ただ、これは法律なのです。法律に反したことをするということになる、これは地方自治体がいかに独自性を発揮しているとはいえ、法律違反はできませんので、これは従わざるを得ないのです。

では、どういう方法があるかという、地区計画というのを定めるということがあるのです。それは何かというと、一定の地域の住民の皆様が、ここの地域についてはこういう都市計画がふさわしい。例えば容積率もこういうのがいいのだとか、建ぺい率についてもこれがいいのだとかいう、そういう建築に関するいろいろなルールを、地区計画という形で自分で定めることができるのです。

今、実は南品川の旧東海道の近くでこれを進めようという動きがあって、かなりの合意が取れました。なかなか大変です。地主さんの合意をとるわけですがけれども、地主さん、実は四国の方にいる。印鑑をもらいに四国まで行ってくるとかいうことで本当に苦労されていますけれども、そういうことをやって、何とか地区計画ができそうだといいところまでこぎつけました。けれども、これができますと、建築基準法のいろいろな定めから一たんはフリーになって、でももちろん大元ではありますけれども、そういったうんと細かいものについては一定程度のクリアができるんです。今のところこの方法しかないのですよ。こうした瑣末な、瑣末ななんて言う、とくに国にしかられますけれども、細かい規制からフリーになれるやり方というのは、

そういう地区計画を地域でやりますよということになりましたら、品川区としては財政的な支援だとか、あるいはマンパワーの支援は十分にできます。コンサルを派遣したりというようなことでもって、ご支援をするわけですがけれども、その合意をとるのがなかなか難しいのですけれども、それさえとれば、今、言ったようなことは可能なのです。

ちょっとストレートな回答ではないのですけれども、実はこれしかないというのはご理解いただきたいと思います。よろしく願いいたします。

## ◆Fさん

### 品川区の財政・事業・創造性について

一つ目は、収支計算書というのはいわゆる全部出すようなものでやっているのか。それとも、役所がよく使っているようなシステムで、東京都知事がこんな経理をやっているのかと、すぐに少し経理が変わったらしく、私はそれしか覚えがないが、お役所の経理というのはどういうようなラインでやるのか。

もう一つは、品川区というの、他の区から言わせると、小中一貫校とか、高齢者保護とか、福祉だというようなことで、品川区は非常に進んでいることが多い。品川区のもの、創造性というの、ほかの区に比べて大きな違いがある。

昔の話だが、大田区に東糶谷と西糶谷の小さい工場がすごく当時はたくさんあって、ほとんどが日本鋼管の直轄の下請けだった。テレビにもなったが、通産省の生みの親だというような佐橋氏という人が、ここはすごい業者がいるみたいだから、ビデオをつくってこいと言って、日本鋼管の社長室に話が来て、それを私のところへ来て、二十何軒だか撮ったことがあったけ

れども、私ら素人から見てもすごい技術だった。

自分の店に、何かあると日本鋼管さんに頼まれているから、ビデオにふさわしくないと言って、それだけ回ってなんとかこなしたが、これはほとんど断った人は、最後にこんな仕事までビデオに撮って、よその業者に、まずコンピューターに載せて仕事を切るつもりかと言われた。もうそれもフィフティ・フィフティで話したうちの 하나가、レンズの工作所だった。もう日本鋼管に1年間で納める金額が200万円から250万円ぐらいだったが、それをもう倒産寸前になって、息子さんがアメリカのいわゆる海外の宇宙関係のところに持っていったら、いきなり年契約で320万円ということで決まった。そういう、私らでは想像つかないようなことで、そこのおやじさんがよく言っていた。世界中でこの削りをまねできたってスイス系。もうエルサイズではないと断言するくらい、本当にもう何でこんなものができるのかって、手づくりだった。

だからそういうのを見てみて、品川区がそのような生産とか工場さんに言ったら、ちょっと海外を回ることが多かったが、本当に中国のカモンとか、ファッションでも韓国やクリスチャン・ディオールとか、いろいろなことにタッチしてきたが、やる気になれば全く品川区だったらできるのではないかなと思いついたことがいろいろあり、何か機会があったら、そういうようなところでも検討するような工夫もしていけたらと思う。

今日の3時に例の各元首長あたりが団結して、また新しいチームをつくるとかいう話があったけれども、何とか品川も負けずに先駆してもらいたいという気がして申し上げた。

## 区長回答

財政のことですけれども、ご存じのように官庁は官庁会計というのがあります。現金主義というのですね。民間企業ですと発生主義ですから、事実がいつ発生したかでもって年度の区切りがあるわけです。区役所はじめ、国はみんなそうなのですから、キャッシュフローなのです。例えば収入がいつあったかで年度を区切るわけです。

ところが民間は、その収入になる源がいつあったかです。だから売り掛けなどというのは、年度をまたいでも売り掛けしていれば、これはもう収入が入るはずだということですから、官庁は売り掛けだけでは収入になっていないので、次の年度になってしまうということ、官庁会計と民間の発生主義の会計と全然違うということで、民間の方から見ると、何だか決算書というのはさっぱりわからないよということなのです。

私どもがこの官庁会計の現金主義というのを変えるわけにはいかないのです。これは地方自治法でこういう会計にしなさいというふうになっていますので。だから、東京都は、どうしているかという、それはそれでやるのだけれども、民間的な会計も同時にやりましょうということで、複式簿記の発生主義のやり方もやっています。品川区の場合はどうしているかという、一たん決算を出しまして、いわゆる官庁会計で出した決算から、民間的な集計方法でもう1回作り直したものを区民の皆さんにお知らせしているという方法です。なるべく民間企業の方がご覧いただいてもわかるようなまとめ方をした財政報告をするようにしています。また機会がありましたらご覧いただければと思います。

それからものづくりのお話です。本当に大田区、品川区は京浜工業地帯の発祥の地です。そういう意味では大変に高い技術力をもった企業というのがたくさんあります。しかし、経済の冷却化だとか、あるいは工場の地方移転だとか、あるいは海外移転というようなことでもって、かな

りの工場あるいはものづくりが品川区、大田区から消えたことも事実です。

では、全然なくなってしまったかということ、決してそんなことはなくて、品川区についていえば、非常に資本力は小さいけれども、技術力がすばらしい、しかも信念があって、こういうことだったらやっつけていけるということに信念を持って、区の創業支援だとか、いろいろな支援の仕組みがありますから、そういうのを非常に貪欲に活用されて、新しい製品だとか新しい機械をつかっておられるところがある。

例えば一例を挙げますと、物をつくるには大体金型が要ります。金型というのは、これがまたほんとうに大仰な仕掛けになるわけです。大きな物をつくるとなると、あるいはその金型を置くだけでも大変なことですから、結局品川区内で工場を構えるということはだんだん難しくなってくる。

ある方が金型を使わないで物をつくれないうことを発想しまして、例えばプラスチックでシュッと吹き出す、吹き出したら形になってしまうというものを作り出したんです。そうすると、小さな設備で、品川区で工場ができるということなのです。品川区から工場が大分消えました。それは場所が狭いから操業できないという理由でなくなったところもあります。しかし、今、言ったようなやり方で物をつくるということが可能になると、大したスペースは要りませんから、もう1回品川区の中に工場が生まれる可能性が出てくる。こういう仕事をしている方がいらっしやいます。本当にこの企業でないとできない、だからこの不況けれども大企業が買いにくるような技術を持っている会社が結構あります。

ところがさっきも言いましたように、弱みは何かということとお金がないということなのです。ですからこのすばらしい製品、あるいはすばらしい機械や情報を発信することができない。発信さえすれば、それに飛びついてきてくれる。今までずっとそういうことが多くありましたから。区としては何をするかということ、今までも新製品を開発するときのご支援をするということと、開発した新製品をPRする、あるいは取り引きが成立するようにマッチングを図るとか、そんなようなことをやってきました。

さっきちょっと緊急対策の説明のところでは省きましたけれども、タイのバンコクに進出する企業の後押しをしたいと思っているのですが、ネックというか、今までの制度ではJETROがそれをやるわけです。JETROがタイのバンコクに進出しようとする企業を支援するのですが、大体かなりの広いスペースを、かなりの長期間にわたって貸し出すという仕方で、その進出の拠点を提供するというのがJETROのやり方なのです。

ところが品川のように小さな企業だと、そんな大きなスペースは要らない。それからそんなに長い期間、お金がないから借りられない。だから狭くていい。短くていい。試しに行くのだというような企業は、JETROの制度では乗っからないです。そこで、品川区はJETROと企業の間で立って、JETROから一定のスペースを借り受けて、期間、スペース、それを品川区が今度はシェアをして、そして小さな会社にお貸しをするということをはじめたのです。

それはかなり有効な方法で、それだったら出ていかれるということで、かなり積極的になってくださいました。ただ、さっきも申し上げたように、今、タイは非常に危険な状態になっていますから、その仕事は、今は少しストップしています。そういう形で小さな企業でもすばらしい技術を持って外へ出る。その後押しをするという仕事をしていきたいと思っています。

それからもう一つは、小さなところが新しい起業を始めるという、創業支援センターというのが西大井にあります。これと同じような創業支援センターを、今度武蔵小山の駅前にもつくりま

す。小さな企業がベンチャーとして育つように、そういう施設をつくっていきます。

そのようなことから、ものづくりの品川区を更に強くしていきたいと思っていますので、よろしく願いいたします。

#### ◆Gさん

##### (追加発言)

私はさわやか福祉財団でいろいろやっているの、区とは高齢者問題でいろいろ委員などをやらしていただいている。

今日の話は、すごくわかりやすい。このパンフレットというか、パワーポイントで、すごくわかりやすいのと、区長の考えというのは非常に柔軟性があると感じる。高齢者問題とか子供支援、縦割りの問題、そういうものに対して区民の声を聞きながらやっているというふうに拝見した。

その上で、いわゆる今日言われた協働の問題。今の新しい政権も、新しい公というふうに思ってもらいたい、それと協働と言っています。そういうような意味では、私もNPOで市民後見の会ということで、成年後見を市民の立場で、区とか社協と連携をとりながら、独立体として成年後見の区民の後見制度を実際やっているけれども、こういうような区民が公を担う部分の協働というものをもっともっと推進していく仕組みを、やはり区民側の提案とか意見も入れながら、受け入れられる素地があると思ってやっている。そういうものを作って、やはり広げていくことがすごく大事だと思う。

駅前住宅のお話とか、いろいろ子供の問題も伺ったけれども、皆さんいわゆる地域に住んで、いろいろな知恵があるわけですね。それをお金をかけないでやっていくということをより推進していただきたいと思う。

#### 区長コメント

ありがとうございます。協働というのは、今回の基本構想の非常に重要な考え方の一つなのです。ただ協働というのは何も今、急に始まったわけではなくて、実は昔からあることだと思うのです。一つ事例を挙げますと、区民消防隊、あるいはポンプ隊、こういったものがあります。ある人が町会の人たちは消防ごっこをやっているというふうに言った人がいました。私はあまりめったに怒らないたちですけれども、怒りましたね。何を言っているのだと。とんでもないことだというふうに、私はその人に言いました。

実際に大きな火事、地震によって起きた火事には、消防自動車は来ません。まず倒木があるの、何が倒れたのって、消防自動車は走れませんから。ましてや、少し建て込んだようなところだったら、それこそ家が倒壊しているとかで来られないのです。実際に、どうするかというと、自分たちの手で消すしかないのです。公がすぐ来るわけではないですから。火はどんどん燃えます。待ってくれません。そのときにやはり何が有効だといったら、地域の人たちの消防力です。ですから、これは、私はその消防ごっこどころじゃなくて、本当にいざというときに大切な働きをするものだと思います。これが、協働の一つの典型だと思うのです。

というのは、自分たちの家は自分たちで守ろうということで訓練を重ねて区民消防隊を結成し、訓練をして備えている。しかし区民消防隊の設備というのは結構高いものですよね。町会でちょっと買ってきましょうというわけにはいかない、かなり高価なものです。ですので、ああいう設備とか、そういう機材、これは公がご提供申し上げます。しかし、それを使ってご自分の手

で消火をしていただきましょう。これも一つの協働だと思うのです。それはもう随分前から行われていることで、こういったことをもっといろいろな場面に広げていくのが協働だろうと思っています。

具体的な方法で、ちょっと三つ申し上げたいのですが、基金を設けました。基金を設けまして、私がお金を区役所に寄附しますから、それを地域のために役立ててくださいというお申し出がありましたら、地域振興基金というところに入れます。そしてそこにたまったお金を、今度は地域のために働こうという団体や会に、そこから支出をするという基金を設けたということ。

それから協働についての提案という制度を設けました。これは2本立てです。区民の皆さんから、私はこういうことをしたいと。ついては、区のほうから支援を願えないだろうかというアイデアをちょうだいして、それだったら税金を投入して支援しても、これは十分に公共性があるなと思われるような事業、単なる趣味だとかそういうのではないですよ。公のために働く、そのことについて税金からご支援申し上げます。あるいはさっき言った基金からご支援申し上げますというのが一つ。

もう一つは、品川区から、こういうようなサービスを提供したいのだけれども、このサービスの担い手になってくださる方はいませんかということを募集するのです。要するにこういうことが、今の世の中、求められている。だけど行政が直接やるのではなくて、区民の方でやってくださる方はいませんか、あるいは団体でもいいです、ということを集めて、手を挙げていただいて、実際にそのサービスを提供する。これも幾つかもう既に始まっていますけれども、そういう提案と協働ということを始めました。これはぜひこれからも拡大をして、充実をしていきたいと思っていますので、そういうことで、もしご提案申し上げたようなときは、よし、わかった、一肌脱ごうというようなことでもって、担っていただけたら大変ありがたいと思っています。

ちょっとお答えになったかどうかわかりませんが、今、考えているところです。